

◎今週の御言葉 「重荷を軽くされて」(マルコの福音書 8章27節～38節)

「するとイエスは、彼らに尋ねられた。『では、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。』ペテロが答えてイエスに言った。『あなたは、キリストです。』」(29)。 仲森文穂牧師

○イエス様が「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」と尋ねた時、ペテロはすぐ「あなたは、キリストです」と答えました。流石ですね。聖書を読んだ人の意見は様々で、ある人はイエス様のことを偉人だと言い、ある人は人生の教師だと言います。でも不十分です。イエス様が望んでおられるのは「出会い」です。人と人が出会う。いな、人と神が出会う。それこそが聖書の正しい読み方です。そこで、主イエスと私が出会う。そして、その出会いによって私たちの考え方が変わる。生き方そのものが変わってしまう。ペテロは「あなたはキリストです」と告白しました。それほどに、彼はイエス様との出会いを喜び、自分の全存在をかけて従いたいと思っていたのです。

イエス様は、弟子たちに「人の子は捨てられ、殺され、三日の後によみがえらなければならない」と話されました。仕方なくそうなるというのではなく、人々の罪の赦しと救いのために、私が十字架にかかり、よみがえる必要があるということです。ペテロはびっくり仰天。それをいさめ始めると、イエス様から「下がれ。サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」と叱られてしまいます。サタンの働きとは、甘い言葉で決心を鈍らせ、神の御心に従うよりも自分に従うよう、人を誘惑するところにあるからです。この自分の思いというのはペテロのみでなく、誰にもあるように思います。

○そういう背景の中で、8：34の「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい」という御言葉を聞くと、かなり身が引き締まる思いがします。果たして私たちに自分を捨て、十字架を背負うなんてことが出来るのでしょうか。大きなチャレンジではないか、と思います。しかし、マタイ11：28でイエス様が言っておられます。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」と。信仰は、重荷を増やすことではなく重荷を軽くされることです。私たちはどんなに力んでも、自分で自分の体を持ち上げることは出来ません。自分で自分を救うことは出来ません。そもそも自分を捨て、自分の十字架を背負うなんて、自分の力で出来るものではありません。自分にできそうもないことはイエス様に委ねて生きる、それが私たちの生き方ではないかと思います。ペテロと同じ弱さもある私たち、イエス様に従う喜びは、ありのままの自分をイエス様に委ねて歩む所があると信じます。人生のどの場面でも「重荷を軽くしてください」主の導きを信じ、そして主に栄光を帰する、そんな日々であるよう祈りつつ歩もうではありませんか。